

刊行にあたって

俳諧は集団性に深く根ざした文芸であり、その文学的研究と俳壇的研究とは不可分の関係にある。

本書は主として後者に資するものとして、元禄時代の各俳書から入集者と各句数を一覧化し、索引を付したものである。これにより、各人がどの俳書に何句を採られているか、誰の歳旦帖に参加しているか、連句では誰と一座しているかが一目瞭然となる。

扱う期間は、芭蕉が「野ざらし」の旅に出た貞享元年（一六八四）から、芭蕉の高弟である其角・嵐雪が没した宝永四年（一七〇七）までの二四年間。八〇〇余の書目

に、およそ二二、〇〇〇人の俳人が登場する。

さらに、本書の前の時代を扱う今栄蔵編『貞門談林俳人大観』（中央大学出版部、平成元年刊）索引をも併収し、CD版では住所・姓氏・職業などの肩書検索を可能とした。そもそも俳諧は、大名のような貴顕から遊女・物乞に至るまで、ほぼすべての職業・階層を巻き込んで展開したのだから、その実態をとらえること自体、近世史研究の大きな課題となるはずである。

また、浮世草子作者や歌舞伎役者の多くが俳諧に携わり、それが人的交流や作品の内容にまで関わっている事実からすれば、近世文学研究の各分野で本書が威力を発揮することも予想される。

俳諧研究における利用価値についてはいうまでもなく、江戸時代の理解に欠かせない一書として、本書が幅広く用いられることを願ってやまない。

和洋女子大学教授 佐藤 勝明

本書の特長

●二〇年の歳月をかけて、全国に分散する俳諧書の所在を確認・調査。

その書誌的事項をまとめ、各書目に入集する俳人とその句数を五〇音順に整理した。

●収録範囲は、芭蕉が「野ざらし」の旅に出た貞享元年（一六八四）から、芭蕉の高弟である其角・嵐雪が没した宝永四年（一七〇七）までの二四年間。

●扱う書目は約八〇〇点、登場する俳号は二二、〇〇〇名のべ九一、〇〇〇名。第三巻として、俳号索引（書籍・CD）・肩書索引（CD）を収録。

●本書の前の時期を対象にした今栄蔵編『貞門談林俳人大観』（中央大学出版部、平成元年刊）の索引も加え、俳諧研究の基本的・総合的な文献とした。

購入のご案内

元禄時代俳人大観 全三巻

げんろくじ だいはいじんたい かん
雲英末雄監修 佐藤勝明・伊藤善隆・金子俊之 編

2011年6月刊行開始【分売不可・全巻予約受付中】

セット定価 37,800円（本体 36,000円＋税 5%）

各巻予価 12,600円（本体 12,000円＋税 5%）

菊判・上製・平均 500頁（予定）＋CD1枚 ISBN978-4-8406-9680-7 C3392 ¥36000E

第1巻 貞享元年（1684）～元禄10年（1697）
【第1回配本】2011年6月刊行 ISBN978-4-8406-9681-4

第2巻 元禄11年（1698）～宝永4年（1707）
【第2回配本】2011年11月刊行予定 ISBN978-4-8406-9682-1

第3巻 索引 書籍版＋CD1枚（予定） *今栄蔵編『貞門談林俳人大観』俳号索引も収録
【第3回配本】2012年3月刊行予定 ISBN978-4-8406-9683-8

編集方針

- ①刊行された俳諧書はすべて調査対象とし、写本・散逸した書に関しても可能な限り取り入れた。
- ②上記に出る入集者は一人も漏らすことなく取り上げた。
各書目の中の句数は、その人の俳壇における位置を知る大切なバロメーターにもなるという考えから、各人の発句（和歌・漢詩などがある場合はその旨を記して別記）が何句とられているかを数え上げている。
連句が収められている場合は、「連句」の項目も立て、連句ごとに参加人数と連句の種類、連衆と各人の句数がわかるように記し、前書などの有用な記述があれば、これも引いている。
歳旦帖の場合は、宗匠ごとに項を分けて、三ツ物や歳旦句・歳暮句の作者名を原本の記載順に記し、俳壇における人間関係がわかるようにした。
- ③全俳人の俳号索引、及び各人の姓や居住地を記した肩書索引をCD版索引で収録した。

【発行】 八木書店 出版部
Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8
●TEL:03-3291-2961【営業】 03-3291-2969【編集】 ●FAX:03-3291-6300
●E-mail:pub@books-yagi.co.jp ●Web:http://www.books-yagi.co.jp/pub

申 込 書	雲英末雄監修・八木書店刊 げんろくじ だいはいじんたい かん 元禄時代俳人大観 全三巻 ISBN978-4-8406-9680-7 C3392 ¥36000E 定価 37,800円（本体 36,000円＋税 5%）		2011年6月刊行開始	取扱店（番線印）
	お名前（ふりがな）		TEL	
	ご住所 〒		FAX	
			E-MAIL	

2011.5 JP 15,000

げんろくじ だいはいじんたい かん

元禄時代俳人大観

全三巻

内容見本

八木書店

雲英末雄 監修 佐藤勝明・伊藤善隆・金子俊之 編

大名から遊女まで
総数二二、〇〇〇人！
近世人が嗜んだ俳諧を知るために

俳諧研究のみならず、近世文化研究に
必備の人名目録。付俳号・肩書索引。

浮世草子作者や歌舞伎役者・村人・商人など、
階層・職業・地域を越えた交流が明らかに。

二〇一二年六月刊行開始

GENROKUJIDAI HALJIN TAIKAN
This book is a catalogue of haiku poet,
from 1684 to 1707.
The number of collection is 22000 people.

赤穂義士も詠んだ俳諧活動を探る

江本 裕

村落文書に見える村人のもう一つの顔

横田 冬彦

本書を推薦します

本書の収める期間は今栄蔵氏の『貞門談林俳人大観』を享けて、貞享から宝永四年（二六八四〜一七〇七）まで。ここに近世前期の俳壇の全貌が初めて網羅されることになった。

更に特筆すべきは、今氏の『大観』をもふくめて、すべての人名が索引化される由で、まことにありがたいことである。筆者は談林俳諧に若干の興味を持つ者であるが、現今の辞典類ではどうしても蕉風中心に編まれがちで、他は簡略な場合が多く、俳諧専一でない筆者などは難渋することが多かった。

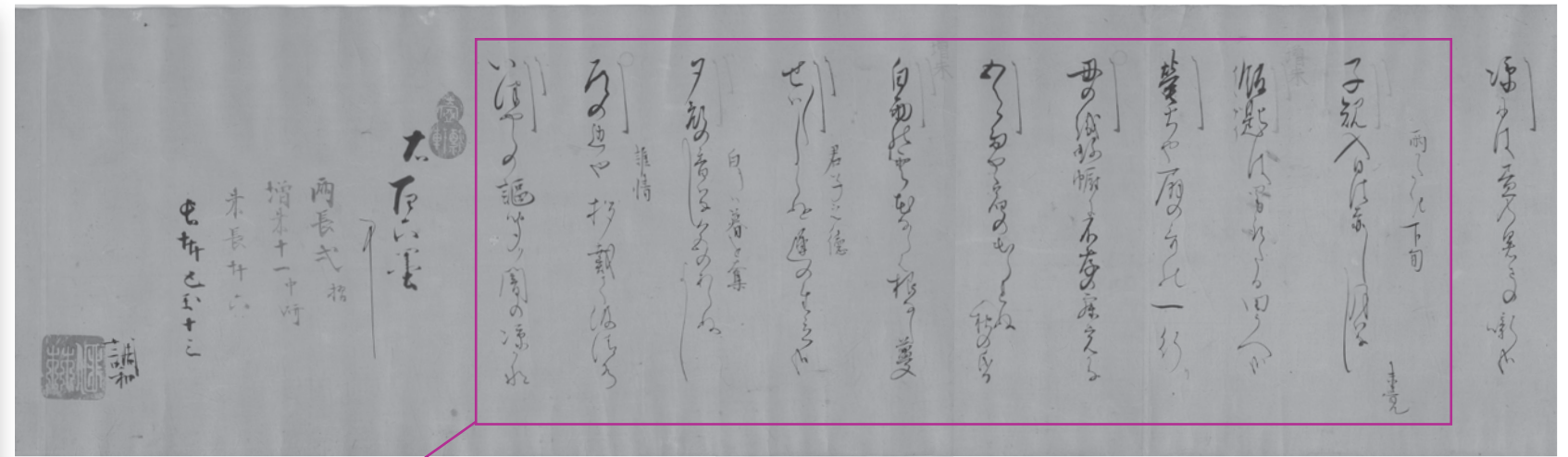
ところが周知の通り、近松にしても西鶴にしても、この期の芸文に携わる人々は俳諧から入るか、もしくは俳諧を嗜む事例が多かった。この度公刊される該『大観』を繙くと、前代からの有力俳人はむしろのこと、浮世草子作者でもある青木鷺水や北条団水・藤岡月尋・雲風子林鴻咄本、『囉物語』の作者高田幸佐、西鶴に関係する伊丹の岡嶋三紀や安平次幸方等々に、たびたび出あうはずである。赤穂義士として著名な大高子葉（源五）の作句活動や、蕉門でありながら大垣藩士であったために義士と深く関わった中川濁子の精力的な活動にも気づくはずである。そして、現在では殆ど無視されている多くの作者をも、この『大観』で確認できるようになる。即ち、近世の研究者必携の書として推薦する次第である。

（大妻女子大学名誉教授・日本近世文学）

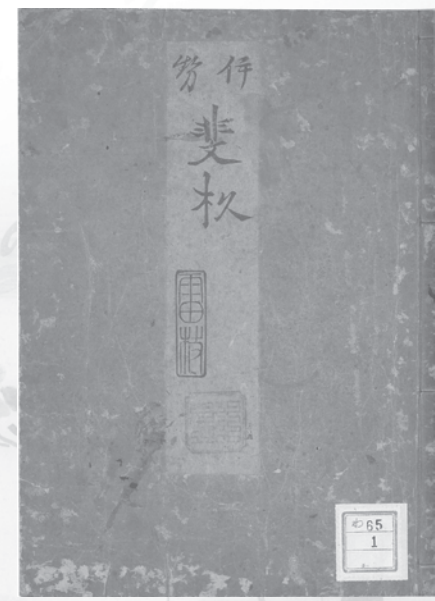
今栄蔵編『貞門談林俳人大観』が刊行されて二〇余年、その続編として、蕉門時代を網羅する本書が刊行される。本書によって、二二、〇〇〇人がその俳名を明らかにした。前書とあわせて索引（第三巻）によれば、四〇、〇〇〇人に達するという。綿密に採録された肩書き等を手がかりにすれば、俳諧史に名を残すような俳諧師たちとは別に、村落文書の中に出てくる村人と一致するものを見出すことも少なくない。それは、戦後近世史研究が明らかにしてきた、農業経営の主体であり、訴願をし、村落自治を担った村人たちのもう一つの顔である。そうした各地域の俳人たちは、俳諧師たちの旅を通じて、東北から九州まで全国に広がり、様々につながっている。いくつもの俳書の重なりがその分厚さを示す。しかも俳書では、卓越した思想家や文芸作者が送り手となり、庶民は受け手（読者）でしかないという関係ではなく、参加者が送り手・受け手ともなる。それは、下からの「国民文化」形成の最初の段階といつてよいのではなからうか。

一七世紀後半に成立する出版文化のもつ深さと広がり、その文化構造のありようを、具体的な名前をもつ一人一人の人間を通して確かめるという作業は、文化を社会の中に据えて考えるということである。本書はそれを可能にしたのである。

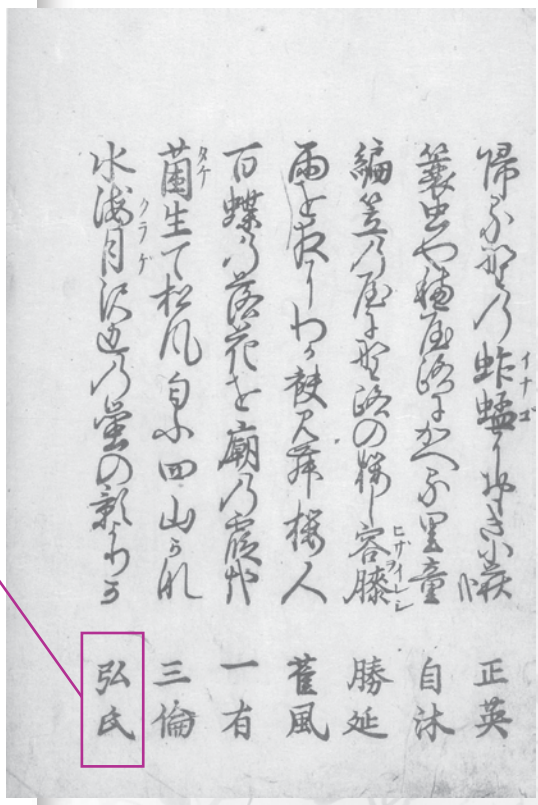
（京都橋大学文学部教授・日本近世史）



〔調和点取帖〕（佐藤勝明所蔵）
調和は延宝頃（1673-81）から江戸で活躍した俳諧宗匠。本点は寄せられた十題目に調和が加点した元禄8年（1695）の巻物で、最高点を取った未覚に贈られている。この裏には花道の伝書が記されており、子孫は先祖の栄誉にあまり関心がなかったらしい。



〔伊勢斐杉〕（天理図書館綿屋文庫所蔵）
貞享頃（1684-88）に伊勢の雷枝が編んだ俳諧撰集で、現存するのはこの綿屋文庫本のみ。伊勢の談林俳人が揃って入集する。掲出の弘氏は伊勢神宮の外宮権禰宜で、伊勢俳壇の指導的存在。天和3年（1683）没で、本書をその年以前の成立とする見方もある。



刊記ナシ。貞享年間ノ刊行カ（綿屋目録。「俳文大辞典」二、元和三年（一六八三）以前の成立カ（弘氏没後から推定）。「俳書集成」解説「二」事物の状況は貞享期の外の俳書に通用ところがある下記サレル。開巻扉裏に「発句・連句集 半紙本 冊 囉設問正英（序）」。綿屋文庫蔵。「俳書集成」8、二影印。

貞享四年（1687）丁卯

勢伊斐

丸	益	云	一	一	発句	ア	行
力	光	而	有	道	岸	枝	行
子	弘	八	一	七	吟	快	行
一	光	口	令	枝	三	倫	行
一	如	雀	自	沐	精	久	行
一	生	正	勝	延	草	也	行
一	白	英	雀	風	夕	行	行
一	四	竹	団	友	竹	子	行
一	定	次	友	涼	未	白	行
一	一	三	マ	行	七	セ	行

①独吟歌仙（雷枝）独吟

〔調和点取帖〕

稿本。元禄八乙亥歳六月十日切ノ清書所（奥）。点取帖。岸本調和点。卷子本一卷。佐藤勝明蔵。冒頭「句分ヲ欠キ、句引ニヨリ作者ハ花丸ト判断サレル。孤蟬ノ部分ニモ切り継ギガアリ、四句分ノ欠ト考エラレル。」

発句

花丸	海石	九	孤蟬	六	蕊真	一〇	風和	二〇	無真	一〇	陸船	一〇
二	三	三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

〔調和点取帖〕

京寺町二条上ル町ノ井筒屋庄兵衛板。元禄乙亥の秋八月十五日ノ洛の桃花坊におゐて校寫（奥）。各務支考編。日記・紀行・発句・連句・俳文集。半紙本三冊。元禄乙亥の秋七月十五日ノ支考自序。綿屋文庫他蔵。「古俳大系 蕉門俳諧集一」等二翻刻。

〔調和点取帖〕・笈日記

一	惟	為	衣	杏	安	本	ア	行
一	狐	然	有	吹	雨	世	一	行
二	四	一	二	九	二	一	一	行
二	越	雲	一	一	一	一	一	行
二	人	鴻	露	髮	道	桐	水	行
二	六	四	一〇	五	一	四	一	行
二	乙	乙	鷗	鷗	黄	桜	猿	行
二	由	州	歩	白	蝶	三	雖	行
二	三	二	二	一	三	二	六	行
二	介	賀	臥	我	可	加	力	行
二	我	枝	高	峰	吟	青	行	行
二	一	七	六	一	五	一	一	行
二	魚	許	去	九	其	角	槐	行
二	日	六	来	節	角	巾	人	行
二	一	五	四	一	四	一	一	行
二	硯	桂	計	句	か	均	曲	行
二	石	之	從	空	如	水	翠	行
二	二	一	一	六	二	二	四	行

445